



# ASA 5550 適応型セキュリティ アプライアンスのスループットの 最大化

---

Cisco ASA 5550 シリーズセキュリティアプライアンスは、この章で説明するガイドラインに従って設定された場合に最大のスループットを発揮するように設計されています。

この章には、次の項があります。

- [組み込みネットワーク インターフェイス \(P.2-2\)](#)
- [スループットの最大化を図るためのトラフィックの分散 \(P.2-4\)](#)
- [次の手順 \(P.2-6\)](#)

## 組み込みネットワーク インターフェイス

適応型セキュリティ アプライアンスは、次の 2 種類の内部バスによって、銅線ギガビット イーサネットとファイバギガビット イーサネットの接続性を提供します。

- 組み込み銅線ギガビット イーサネット ポート 4 個を備えたスロット 0 (バス 0 に対応)
- 組み込み銅線ギガビット イーサネット ポート 4 個とファイバギガビット イーサネット接続を提供する組み込み SFP 4 個を備えたスロット 1 (バス 1 に対応)

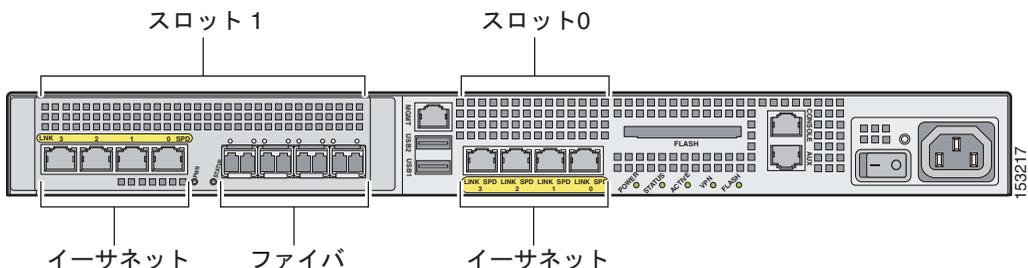


(注)

適応型セキュリティ アプライアンスを使用してファイバ接続を確立するには、使用する各ファイバポートごとに SFP モジュールを注文し、取り付ける必要があります。ファイバポートと SFP ポートとモジュールの詳細については、[P.3-6](#) の「SFP モジュールの取り付け」を参照してください。

図 2-1 に、FWSM の組み込みポートを示します。

図 2-1 ASA 5550 の組み込みポート



**(注)**

スロット 1 には銅線イーサネット ポート 4 個とファイバーサネット ポート 4 個がありますが、スロット 1 で一度に使用可能なのは 4 個のポートのみです。たとえば、スロット 1 で銅線のポート 2 個とファイバ ポート 2 個を使用することはできますが、スロット 1 で 4 個すべての銅線ポートをすでに使用している場合、ファイバポートは使えません。

## スループットの最大化を図るためのトラフィックの分散

トラフィックのスループットを最大化するためには、デバイスの2つのバス間でトラフィックが均等に分散されるように適応型セキュリティアプライアンスを設定します。これを実現するには、一方のバスに入ったトラフィックがもう一方のバスから出るようにするため、すべてのトラフィックがバス0（スロット0）とバス1（スロット1）の両方を通過するネットワークレイアウトにします。

図 2-2 および 図 2-3 は、ネットワークトラフィックが分散の様子を示しています。すべてのトラフィックはデバイスの両方のバスを通過するため、適応型セキュリティアプライアンスは最大のスループットを提供します。

図 2-2 最大スループットのために均等に分散されるトラフィック（銅線から銅線）

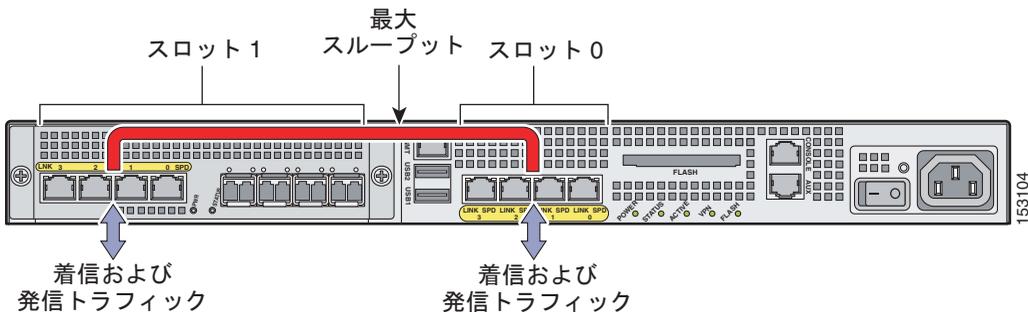


図 2-3 最大スループットのために均等に分散されるトラフィック（銅線からファイバ）

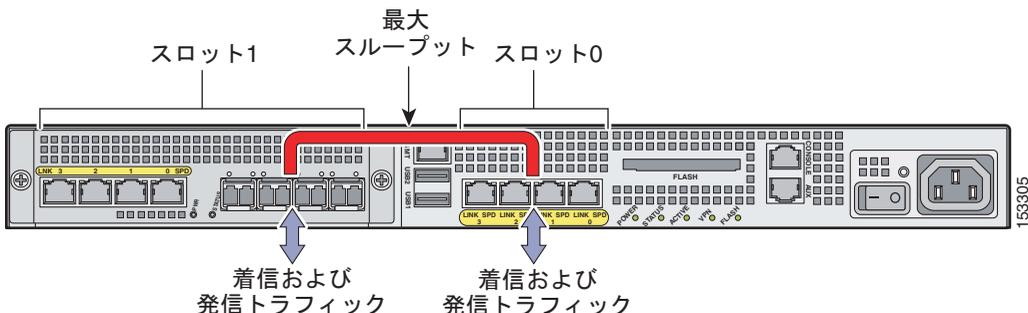
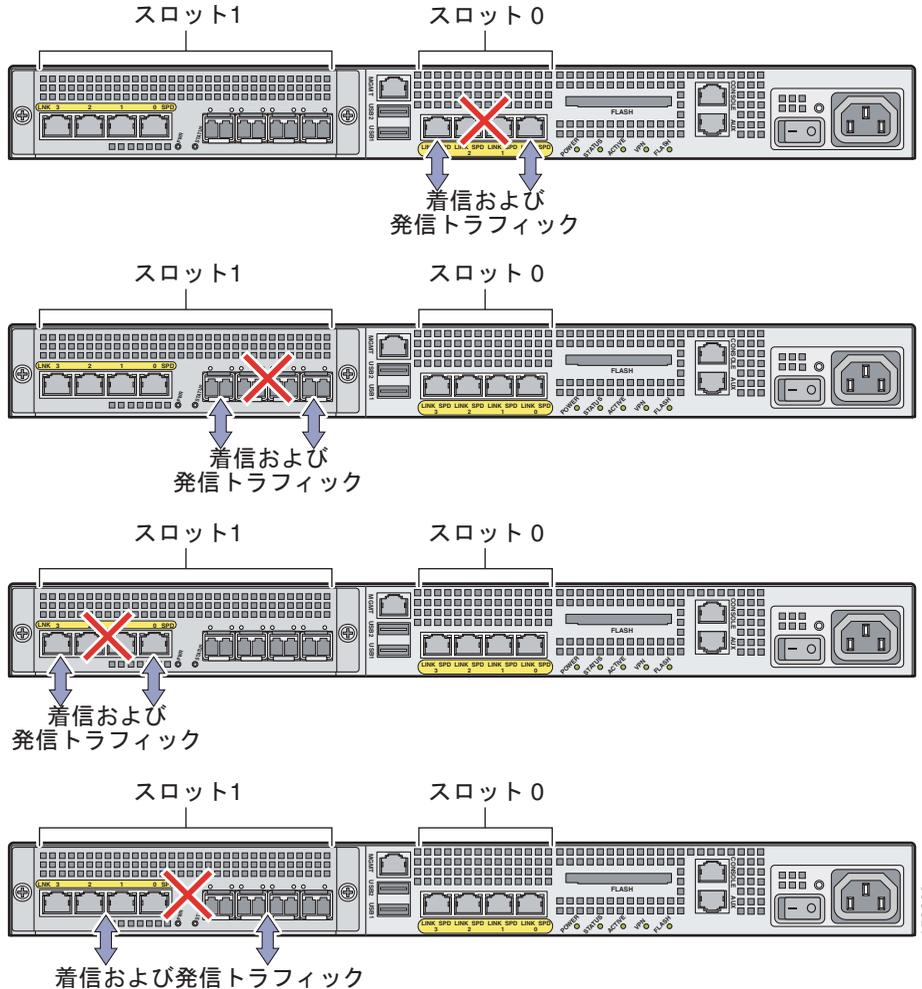


図 2-4 は、ネットワーク トラフィックがデバイスの一方のバスのみ通過するために適応型セキュリティ アプライアンスが最大のスループットを提供できない例を示します。

図 2-4 最大のスループットを提供しない設定





(注) **show traffic** コマンドを使用すると、各バスのトラフィックのスループットを確認できます。コマンドの使用法の詳細については、『*Cisco Security Appliance Command Reference*』を参照してください。

## 次の手順

第3章「Cisco ASA 5550 適応型アプライアンスの取り付け」に進みます。